

令和元年度

事務事業評価表 A (平成30年度の実績評価)

記入年月日
平成 31 年 4 月 10 日

事務事業名		桜川市スポーツ芸術文化振興協会事業				事業区分		担当	
政策体系上の位置付け						新規/継続	継続	事務事業No.	020101000206
政策体系	総合計画の施策名		0201		学校教育の充実		単独/補助	単独	所属課
	政策名		02		生きがいを育む学びのまちづくり		主要事業	対象外	090101
	施策名		01		学校教育の充実		市長マニフェスト	対象外	学校教育課
	手段名		01		①教育内容の充実		未来PJ事業	対象外	グループ
財務会計上の位置付け						合併建設計画事業		対象外	総務グループ
事業期間									
予算科目	会計	款	項	目	事業	細	単年度繰返し (平成18年度～)		
	01	10	01	02	02	00	事務局事業		
法令根拠	桜川市スポーツ芸術文化振興協会規約						期間限定の場合、総投入量を(3)投入量の右側に記入		

【Do】 1. 事務事業の現状把握(その1)

手段	(1) 事務事業の概要					(2) 担当者が行う業務の内容・やり方・手順				
	①事務事業の概要（事務事業の全体像） 桜川市内における児童生徒のスポーツ芸術文化の向上と、伝統ある郷土芸能の保存振興を図るため、スポーツ部門には、団体及び個人に対して交通費・宿泊費・参加費の一部を助成する。芸術文化部門には、郷土の歴史や伝統的文化活動に対する保存、継承活動に対する運営費の一部を助成する。 この事業は、合併時に岩瀬町の制度を引き継ぎ、平成18年6月1日桜川市スポーツ芸術文化振興協会を設立した。現在は、小学校9校・中学校4校・義務教育学校1校、市内高等学校3校となったことにより、助成対象が広範囲となった。 事業費は一般会計の計上は無し、基金を設置し、桜川市スポーツ芸術文化振興協会より、個人・団体に助成される。					桜川市スポーツ芸術文化振興協会の事務局は学校教育課にあり、担当者は協会に事務を行っている。 ・文化協会会計監査、桜川市スポーツ芸術文化振興協会総会開催、助成金交付に係る申請の受理、審査、交付決定、助成金交付日決定、交付式、事業報告書の受理				
	(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移									
①手段（担当者の活動内容）		④活動指標（活動量を表す指標）		単位	29年度 （実績）	30年度 （実績）	01年度 （計画）	02年度 （目標）	03年度 （目標）	
会計監査、桜川市スポーツ芸術文化振興協会総会開催、助成金交付に係る申請の受理、審査、交付決定、助成金交付日決定、交付式、事業報告書の受理		助成金交付数		件	30.00	46.00	50.00	52.00	55.00	
					0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
					0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
					0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
②対象（誰、何を対象にしているのか）		⑤対象指標（対象の大きさを表す指標）		単位	29年度 （実績）	30年度 （実績）	01年度 （計画）	02年度 （目標）	03年度 （目標）	
市内の小学生、中学生、高校生、一般		市民		人	41,278.00	40,483.00	40,027.00	39,571.00	39,115.00	
					0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
					0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
③意図（この事業によって対象をどう変えるのか）		⑥成果指標（対象における意図の達成度を表す指標）		単位	29年度 （実績）	30年度 （実績）	01年度 （計画）	02年度 （目標）	03年度 （目標）	
市内の体育活動や芸術文化活動をする団体・個人に対して、上位大会等への出場経費に対し、助成をすることにより、桜川市のスポーツ及び芸術文化の振興を図る。		総支給金額		円	1,922,170.00	2,039,260.00	2,040,000.00	2,060,000.00	2,080,000.00	
					0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
					0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
投入量	(3) 投入量（事業費）の推移				29年度 （実績）	30年度 （実績）	01年度 （計画）		期間限定 総投入量	
	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0		0	
			県支出金	千円	0	0	0		0	
			地方債	千円	0	0	0		0	
			使用料・手数料	千円	0	0	0		0	
			その他	千円	0	0	0		0	
			一般財源	千円	0	0	0		0	
			事業費計（A）	千円	0	0	0		0	
		正規職員従事人数	人	1.00人	1.00人	1.00人				
事業費の内訳	30年度事業費 実績（千円）				01年度事業費 予算（千円）					
合 計				0			合 計	0		
(4) 当該年度の実施内容		01年度の事業内容		02年度の事業内容		03年度の事業内容				
※下記に該当する事業は、年度ごとに事業内容を記入する ・主要事業 ・市長マニフェスト ・未来PJ事業 ・合併建設計画事業										

事務事業名	桜川市スポーツ芸術文化振興協会事業	事務事業No.	20101000206	所属課	学校教育課
-------	-------------------	---------	-------------	-----	-------

【Do】 1. 事務事業の現状把握（その2）

(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	
児童生徒のスポーツ芸術文化の向上と伝統ある郷土芸能の保存振興を図るため、合併時に岩瀬町の制度を引き継ぎ、平成18年6月1日桜川市スポーツ芸術文化振興協会を設立した。現在は、小学校9校・中学校4校・義務教育学校1校、市内高等学校3校となったことにより、助成対象が広範囲となった。	
(6) この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者）からどんな意見や要望が寄せられているか？	
特になし。	
(7) 前回の事務事業評価に対する改革・改善の具体的内容	
改革改善を行う	・現在スポーツ部門の助成は多いが、文化関係の助成が少ない。 ・全体的に、この事業に関する周知が少なく、知らない方が多いことから、スポーツ部門で申請されないことがある。また、文化関係に対する助成の基準を明確にする必要がある。 【課題】 ・協会の資金に限りがあり、趣旨を説明し資金を集める必要がある。

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評 価 項 目	
目的 妥当性	①政策体系との整合性（この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？）
	☒ 結びついている スポーツ、文化関係の大会に対し助成金を交付し、参加しやすくなることは生涯学習・芸術文化活動の推進につながる。児童生徒の体育面・文化面での向上を図り、心身ともに健全な育成を図ることは教育の充実にもつながる。
	②公共関与の妥当性（なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？）（法定受託事業はその名称）
	☒ 妥当である 桜川市の芸術文化の振興のため、団体及び個人に対して必要な助成をし、スポーツ芸術文化の分野における優れた人材の育成を目的としているので妥当である。
有効性	③成果の向上余地（成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？）
	☒ 向上余地がある 各スポーツ大会に対する助成が多く、文化関係に対する助成が少ない。文化関係に対する助成の基準を明確にする必要がある。
	④廃止・休止の成果への影響（事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？）
	☒ 影響有 関東・全国大会へ出場する児童・生徒の保護者の個人負担が増額される。
効率性	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性（類似事業や統廃合の可能性はありますか？（市以外の取り組みも含む））
	（他に手段がある場合）⇒ 具体的な手段、事務事業名
	☒ 余地がない 類似事業はない。
	⑥事業費・人件費の削減余地（成果を下げずに事業費を削減できないか？やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか？）
☒ 削減余地がない 県の代表として関東・全国大会に出場する個人及び団体に対して助成金を交付しているので事業費は一定でなく毎年変動している。人件費については、振興協会が助成金を適正に交付するための必要最低限の事務によるものである。	
公平性	⑦受益機会・費用負担の適正化余地（事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？）
☒ 公正・公平である 振興協会事業計画に基づき、桜川市内に設置してある。小・中・高等学校の児童生徒及び一般市民がスポーツ及び芸術文化関係で、県の代表として関東・全国大会等に出場する個人及び団体等に対し助成金を交付しているので妥当である。	

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性（次年度計画と予算への反映）

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括（振り返り、反省点）																								
①目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ②有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	⇒	・現在スポーツ部門の助成は多いが、文化関係の助成が少ない。 ・種目によって、大会数が多かったりすることから、同一人物への助成が年に数回行われている事も事実である。優秀な選手への助成ではあるが、基金には限りがある。																								
(3) 今後の事業の方向性		(4) 改革・改善による期待成果（終了・廃止・休止の場合は記入不要）																								
☐ 終了 ☒ 継続 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☒ 改革改善を行う → ☐ 現状維持		（複数回答可） ☐ 目的の再設定 ☒ 有効性の改善 ☐ 統廃合ができる ☐ 効率性の改善 ☐ 公平性の改善 ☐ 連携ができる																								
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策		<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th></th> <th></th> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト					削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下		×	×
		コスト																								
		削減	維持	増加																						
成果	向上		○																							
	維持			×																						
	低下		×	×																						
・文化協会及び関係団体と連携を図り、市民や学校等の文化活動の活性化を図っていく。 ・優秀な選手への助成が、同一年に数回と偏ってしまう傾向にある。年間助成回数等の限度を設定することも考えられる。体育協会等との連携も考えられる。		(6) 事務事業優先度評価結果 成果優先度評価結果 ④ コスト削減優先度評価結果 -																								

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価		(2) 部長確認及び評価（課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合）	
課長確認後の評価 ☒ B A：継続（現状維持） C：終了、廃止、休止 B：継続（改革改善を行う） D：2次評価へ提出		確認欄 ☒ 確認	